



●論文がアクセプトされました

2 年次の大森先生が執筆した論文が、日本内科学会 英文誌『Internal Medicine』に掲載されることになりました。大森先生、おめでとうございます！貴重な経験をした大森先生にインタビューを行いました。

“*Leuconostoc lactis* – a rare cause of bacterial meningitis in the immunocompromised host: A case report”で Internal Medicine に accept されました。*Leuconostoc lactis* という細菌は乳酸菌の一種でヨーグルトなどにも含まれている菌らしいのですが、新生児や免疫不全状態の方では稀に感染することが、いくつか報告されています。昨年、脳神経内科ローテ中に担当した髄膜炎の患者さんの髄液と血液培養からこの細菌が検出されました。*Leuconostoc lactis* による髄膜炎は文献上もあまり例がないため、ケースレポートで報告させていただきました。



Internal Medicine
The Japanese Society of Internal Medicine

doi: 10.2169/internalmedicine.5076-20
Intern Med 59: ****-****, 2020
<http://internmed.jp>

[CASE REPORT]

Leuconostoc lactis- A Rare Cause of Bacterial Meningitis in an Immunocompromised Host

Reo Omori¹, Satoru Fujiwara¹, Hiroyuki Ishiyama¹, Hirokazu Kuroda² and Nobuo Kohara¹

Q1.論文を作成しようと思ったきっかけを教えてください。

A1.以前からなんとなく興味はありましたが、実際にどうすればいいかわからず、書く機会はありませんでした。脳神経内科ローテ中に珍しい症例を担当させていただいた際に、指導医の藤原先生からご提案いただき書き始めました。

Q2.論文を作成するにあたり、一番苦労したことや大変だったことはありますか。

A2.様々な教科書やこれまでの類似したケースレポートを読んで考察をまとめる過程です。ただ珍しいというだけでなく、この論文で何をメインに伝えるのかを考えて、英語で論理立てて組み立てていくのはとても大変でした。藤原先生に何回も修正や指導をしていただき、また感染症科の黒田先生にも抗菌薬についてご教示いただいて、なんとか形にすることができました。

Q3.論文作成を通して、学んだことはありますか。

A3.全てが初めてだったので、わからないことだらけでした。本文を作るだけでなく、accept されるまでにやるべきことがたくさんあることも初めて知りました。例えば、本文を書き終わって提出する時は、editor の先生宛のカバーレターと一緒に送ります。その返信で修正依頼や質問が来たら、一つ一つ丁寧に修正し、また返事を待つということの繰り返しです。今回は幸いにも簡単な修正のみでしたが、もちろん全て英語でこの過程を行わなければなりません。ちなみに、これも初めて知ったのですが、当院では無料で英文校正を利用することができます。私のとても拙い英文が、立派な native English になって返ってきました。とても便利でありがたかったです。

Q4.今後の目標について教えてください。

A4. 今後も機会があれば論文執筆にチャレンジしたいと思います。そのためにまずは題材を探すため、常に clinical question を持ちながら、日々の診療に携わっていききたいと思います。

Q5.指導して下さった上級医へのコメントをお願いします。

A5.指導医の藤原先生には、半年あまりの間、論文作成の基本から指導していただき、大変感謝しております。何もかもわからない状態で、初歩的なことからたくさん質問・相談させていただきましたが、最後まで親身になってご対応していただきました。ご指導がなければ、絶対に途中で挫折してしまっていたと思います。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

感染症科黒田先生には、考察についてたくさんの知見をご教示いただきました。考察に深みが増し、accept に漕ぎ着けることができたと思っています。コロナ禍で大変な時期だったにもかかわらず、快くご指導していただき、大変感謝しております。

Q6.最後に感想をお願いします。

A6.もちろん日常業務を行いながらだったので、過程はとても大変でしたが、その分 accept されたときの達成感は格別でした。今後は今回の経験を生かして、志望科に関しての論文も書いていきたいと思っています。

臨床研修センター長、指導医からのコメント

論文アクセプト、おめでとうございます。とても素晴らしいことだと思います。医師が論文を書くことの意義の一つに、医師としての臨床能力を高めていくために必要なステップである、ということがあると思います。引き続き、頑張ってください。指導して下さった先生方、ありがとうございました。
(臨床研修センター長／総合内科 西岡 弘晶)

稀な起因菌による細菌性髄膜炎の症例報告でした。当初は学会発表を考えましたが、この症例は論理構成がシンプルで臨床現場へのメッセージ性もあったため最初からケースレポートを書く方針にしました。大森先生は臨床留学を志していることもあり英語の問題が少なく、形式的なことをサポートするだけでスムーズに執筆してくれました。彼にとって初期研修医のうちに論文作成を経験することは非常に意義深いことであると思っていたので、accept のメールを見た時は自分の時のように嬉しい気持ちになりました。これをきっかけにして次のステップに進んでくれることを期待しています！

(臨床研修センタースタッフ／脳神経内科 藤原 悟)

